



高畑勲監督の死を悼む

東谷 篤

世界の映像・文化・思想に大きな足跡を残した、高畑勲監督がこの4月5日、82歳で亡くなられた。心からお悔やみ申し上げたい。

白子川源流・水辺の会が生まれて15周年にあたる2015年に、その記念事業として、九州の水郷・柳川の復活とそれに生涯をかける市職員と市民の姿を描いた『柳川堀割物語』（1987年公開）の上映会を開いた。この映画は、監督・高畑勲、製作・宮崎駿、そして製作会社は宮崎駿の個人事務所「二馬力」で、柳川の歴史と自然、そして高度成長期に荒れ果てた川を再生させる様子を丹念に描いた、上映時間165分のドキュメントである。高畑・宮崎のコンビにとってはちょうど、『風の谷のナウシカ』（84年）『天空の城ラピュタ』（85年）と『火垂るの墓』（88年）『魔女の宅急便』（89年）の間に製作された作品となる。

2015年7月12日、練馬勤労福祉会館には会員外の人も含めたくさんの方が詰めかけ、映画を堪能したが、その会場には、学園町にお住まいの高畑さんのお姿もあった。高畑さんはこの映画上映を快く認めてくださっただけでなく、上映の際の挨拶や上映後の懇親会でのお話までなさってくださいました。私たちにとっては、まさに夢のような記念事業となった。

その懇親会の席上、高畑さんは、柳川復活に奔走した市職員の広松伝さんの話に及び、その活動が当時、必ずしも当地の理解を得られたものでなかったことを明かし、この映画製作にも多くの困難があったことをお話しになった。先日、ご自宅に弔問にうかがい、この映画の上映への謝意を述べた際に、奥様は現在柳川ではこの広松さん顕彰の動きがあり、市役所内に広松コーナーができた、というお話をしてくださいました。『柳川堀割物語』に感動し、また、日頃白子川にかかわっている私たちにとっても、これはうれしい話であった。

高畑勲さんのご冥福を心からお祈りしたい。